

付加疑問の作り方

1. 肯定文には( )の疑問形を付け加える  
否定文には( )の疑問形を付け加える

2. 付加疑問の主語は、文の主語を受けて( )にする。

Jude Law はロンドン出身ですよ。

---

Jude Law はロンドン出身ではないですよ。

---

君は裕福な家庭に生まれたんだよ。

---

君は裕福な家庭に生まれなかったんだよ。

---

君は生物学が好きなんだよ。

---

君は生物学が好きではないんだよ。

---

君は Harris さんという方からメールを受け取ったんだよ。

---

君は Harris さんという方からメールを受け取っていないんだよ。

---

Thomas はいつ財布を盗まれたのか憶えているんだよ。

---

Thomas はいつ財布を盗まれたのか憶えていないんだよ。

---

君は一週間病気なんだよね。

---

君は病気になったことがないんだよね。

---

Taro はバイオリンを弾いているんだよね。(現在進行形を用いて)

---

君は誰からも愛されているんだよね。

---

ネコにはたくさんのノミが付着しているんだよね。(of を用いて)

---

テーブルの上に一杯のビールが置いてあったよね。

---

君のテスト結果を見せてくれませんか？

---

ステーキを焼いてくれませんか？

---

公園に行きませんか。

---